1983

年頭のごあいさつ

村民一体となって 財政難の克服を

村長 金子誠一

明けましておめでとうございます。新春を皆様と共にお慶び申し上げお祝いいたしたいと思います。昨年は大変お世話になりました。お陰様で予定させていただきました諸事業の実施を始め、村政全般にわたる運営についても、極めて円滑且つ円満な中で推移させていただきましたことに深くよろこびを感ずるものであります。

これも偏に村議会の皆様を始め村民各位のご厚情、ご理解、ご協力によるものであり、ここに謹んで衷心より感謝とお礼を申し上げるものであります。

今年も又、心を新たにし、村民各位の合意と参加の中にあって、より積極的な行政の推進を図り、皆様方のご期待と信頼にそむかぬ様、誠心誠意応えてまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

今一番、気がかりなことは、国の財政事情であります。世界的経済不況から生ずる諸々の国際摩擦等、景気は依然として低迷を続け、ために国は大巾な税収減となり、赤字国債の脱脚悲願も空振りとなり、国債の再増発も余儀なくされ、かつてない人事院勧告の凍結さえも実施しなければならない最悪の現状であります。

しかも五十八年度予算は、マイナスシーリングと言われ、減額要素を多分に含んだ予算編成の可能性が十分察知できるのであります。地方自治体は残念ながら、国の財源への依存によって成り立っており、若しこのような状態が今後継続されるとすれば、正に地方自治体は存亡の危機を迎え、いずれ財政制度の改善が迫られるものと予測されます。今、国は行政改革を始めとする。一連の財政対策に必死といった実情かと思うのであります。勿論地方自治体においても国に準じ或いは又、自主的な改革や見直しをして行くことは当然であるとはいえ、精一杯なすべき事は、やるという信念のもとで、取り組んでまいる所存であります。

そこで取り敢えず、五十八年度の施策についてふれて見たいと思います。先ず新規事業としては、浄水場の新設であります。現在の浄水場（吉田町）は老朽化が進み、改良拡張は非常に困難で、むしろ新設するより割高になること、今一つには配管距離の長い点と、他町村の地域に埋設されている難点等将来にわたって多くの障害が残るであろうと、専門家は指摘し、診断の結果がだされたのであります。現在の生活環境からいって、万一のことを考えると、一時たりとも放置することは許されず、議会の皆様方と十分検討、協議の結果、早急に新設することに踏み切ったと次第であります。その位置については、取水の条件からいって、夏井地内の弥彦村寄りが最も適当とされたのであります。

これに基づき、弥彦村との境界近くに当たる「ぶどう団地」の一角に立地点を求め、地域並びに地権者の皆様の、絶大なご理解とご協力をいただきながら、五十八及び五十九年度の二か年の継続事業として実施する予定にいたしております。今一つには、間瀬地域における支所の改善促進であります。村の均衡ある発展と住民福祉を考える時、平場には、公民館、体育館、そして商工会館もできました。

▲順調に工事の進んでいる役場庁舎

はばたけ!!

決意を新たに 新しい村づくりを

村議会議長 藍沢六郎

霊峰弥彦多宝のやまなみに、新雪の輝く、昭和五十八年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、国外にあっては貿易摩擦と、国内では需給不況と、極めて厳しい社会情勢の中で、九十兆円を越える財政再建の為の臨調の行政改革の答申が、次々と、強く打ち出された年でもあった訳であります。さらに今年は、私たちのもっとも関心事の、十五兆円にのぼると言われる補助金の見直しを俎上に、検討中であると言われており、その中で、再編対策の補助金の見直しも含まれているとの事で、単作地帯の当岩室村の農家にとりましては、大変な問題であり憂慮するところであります。

幸いにも、天候に恵まれた昨年は、豊作の中で新しい年を迎えると共に、再生産の意欲を感じておられる事と思います。

また、上越新幹線の開通と、首都圏までわずか九十分と時間的短縮はいうに及ばず、表日本、裏日本の地域格差の変革の時代が訪れた訳であり、文字通り高速交通時代、いわゆる、日本海時代が到来した訳であり、新幹線による恩恵を活用する、受入態勢の画期的な対応が要求されるときではなかろうかと思います。農業、観光、商工業にしても、指導態勢の確立を期さなければならないと、考えを新たにしているところであります。

尚、村行政と致しましては、夢とやすらぎのある、住み良い恒久的な村づくりの為の、第二次長期計画の初期段階において、村史の一ページに残る庁舎新築の施工を始め、老朽化の激しい、しかも、一日もゆるがせに出来ない日常生活直結の浄水場の新設へと動き出し、地権者はじめ関係者各位のご理解とご協力により着工準備を整えつつあるのであります。

何れを見ましても、財政規模の小さな岩室村にとり、交付税削減といわれる厳しい地方財政の中で乗り越えていかなければならない峻しい道でありますが、明るい豊かな村づくりと、村民福祉の整った岩室村づくりの為、最大限の努力を惜しまないと決意を新たにするものであります。

年頭に当たり、平素より議会にお寄せ下さるご支援に、厚くお礼申し上げる次第であります。

今年も、一層のご協力をお願い申し上げ、村民各位のご健勝と最良の年でありますよう祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

更に役場庁舎も建設中であるといった現状の中で、老朽化も甚だしく、利用価値にも乏しい支所を何んとかしなければならないと思っております。勿論改築するとなれば、支所兼公民館の分館としての機能を果す、地域住民各層の利便に供することのできる施設でなければなりません。しかしそのためには、将来的なことも併せ考えた中で、十分検討の余地が残されている様にも思いますので、今後話し合いの場を求めながら、積極的に促進を図ってまいる所存であります。

以下、継続的な事業施策になるわけでありますが、只今、建設中の庁舎と、これから建設に入る消防庁舎の同時完成であります。尚工期は七月一杯を目途といたしているところであります。さらには、年来の水田利用再編対策への対応、教育及び体育の振興、農業総合整備モデル事業第三年次の実施、道路整備、青少年の健全育成、交通安全、犯罪防止等を重点といたしておりますが、更に国、県と関連をもつ道路を始めとし、水産、治山、観光等々にも新規、継続という多くの問題を抱えているところでありますので、関係の皆様と共に精一杯、努力をしてまいりたいと思っております。

以上、年頭に当っての所信の一端を申し述べましたが、国の財政事情や、不況の長期化等から厳しさは、一層深刻なものが予測されるところであります。従って、これからの村政の運営には、特に皆様のご理解とご協力、そしてお互いの誠意に待つところが極めて大きいと思っております。従来に増して、村民の皆様と一体となって明るい豊かな村づくりに取り組んでまいりたいと思います。

皆様のご繁栄、ご健勝を心から祈念して、年頭のご挨拶といたします。